mycin anycin.: 174598b Preparation of anthracycline derivatives as statics. Berscheid, Hans Gerd; Fehlhaber, Hans Wolfram chst A.-G.) Eur. Pat. Appl. EP 311,002 'Cl. C07H15/252), 12 1989, DE Appl. 3,733,885, 07 Oct 1987; 9 pp. The title

111

111: 174600w A process for preparation of fluorinated p-nictrophenyl N-acetyl-D-glucosaminides and their use as substrates for determination of N-acetyl-β-D-glucosaminidase. Kurihara, Toshio; Nishikawa, Toshio; Kamimura, Minoru (Sapporo Breweries, Ltd.) Jpn. Kokai Tokkyo Koho JP 01 68,391 [89 68,391] (Cl. C07H15/203), 14 Mar 1989, Appl. 87/225,330, 10 Sep 1987; 5 pp.

The title glycosides (I; X = H, halo, OMe; n = 2-4), useful as substrates for detn. of N-acetyl-\$\textit{\textit{\$P\$}}-D-glucosaminidase (NAGase) (no data), are prepd. by reaction of N-acetyl-\$\textit{3.6}\textit{\$-\$tr}-\$\textit{\$O\$}-actyl-\$\textit{\$\alpha\$}-D-glucosaminidase (NAGase) (no data), are prepd. by reaction of N-acetyl-\$\textit{3.6}\textit{\$-\$tr}-\$\textit{\$O\$}-acetyl-\$\textit{\$\alpha\$}-D-glucosamyl chlorides (II) with the corresponding fluorinated \$p\$-nitrophenols in a heterogeneous system followed by deacetylation. 2,3-Difluoro-4-nitrophenol, N-acetyl-\$\textit{3.6}\textit{\$-\$tr}-\$\textit{\$O\$}-acetyl-\$\textit{\$\alpha\$}-D-glucosamyl chloride, and \$Et_3N+CH_2Ph_Br\$ were dissolved in CHCls and I.O N aq. NaOH was added with vigorous stirring. The mirt. was stirred 2 h to give 80% 2,3-difluoro-4-nitrophenyl N-acetyl-\$\textit{\$\alpha\$}-D-glucosaminide which was treated with NaOMe/MeOH to give \$\textit{\$\alpha\$}\textit{\$\alpha\$}-D-glucosaminide. \textit{\$\alpha\$}\textit{\$\a

H, acyl; R², R³ = H, C1-4 alkyl; R⁴ = thiocyanato, SH) are prepd. by (I) diezotization of I (R⁴ = NH₂), followed by treatment with a thiocyanato and optional hydrolysis of the resulting ester. Treatment of I (R¹ = Ac; R² = H; R³ = Me; R⁴ = NH₂) with NaNO₂ in aq. H₂SO₄, followed by treatment with KSCN gave 34.1% I (R⁴ = thiocyanato): A Ag electrode modified by the latter was prepd. and cytochrome C was reduced using the electrode.

→ 111: 174502y Preparation and formulation of bridged oxygen analogs of daunorubicin and doxorubicin as antitumor agents. Acton, Edward M₁. Tong, George L. (SRI International) U.S. US 4.826,964 (Cl. 536-6.4; C07H15/24), 02 May 1989, US Appl. 400,120, 20 Jul 1982; 8 pp. Cont.-in-part of U.S. 4.585,859. The title compds. [I, II; R = MeCO, CHMeOH, COCH4OH, CH(OH)CH₂OH, H, OH, alkyl; etc.; R¹ = alkyl; X = 0, NH; Y = MeO, HO, H; but when Y = OH or H, X must be O; Z = O; S, CH₂, CH(OC¹)], useful as antitumor agents (no data), are prepd. 1.4-= Anhydroerythritol was oxidized to give the corresponding dialdehyde, which was treated with doxorubicin in H₂O-MeCN contg. NaBH₃CN to give II (Z = 0, X = 0, Y = MeO, R = COCH₂OH).

111: 174 arabonat Nakamuri Nacional C07C59/1 Alkali me EtOH, Pr with O, co Thus, O w 10-30 mir of methar cooling, ne 111: 1740 system at Yuji; Ya Ogawa, Ta 52,794 [8: 87/134,076

R1 = SQ; (useful for glycosidati
Ac) with 3
= Ct, R1 =
= SAc, Ri 2.13 mmol R1 = CO₂N 1,2-0-tetra (1:1) was a 88.65% I (which was NaOH in CO₂Na, R² neuroaxis 111: 1746 for induc for. Tomova C08B37

なっている意味

Oligogalacti = alkya pro for indicing in the press gave 75.70% which was a Ra = CH₂O with (COCI) bath gave a allyl, n = 8) NaHPO4 in R² = allyl, MeOH quar (VI).

◎ 公 開 特 許 公 報 (A) 平1 - 104075

@Int_Cl_4

識別記号

庁内整理番号

磁公開 平成1年(1989)4月21日

C 07 D 475/14 G 01 N 27/30 E - 7363 - 2G

審査請求 未請求 発明の数 3 (全8頁)

匈発明の名称

フラビン誘導体およびその製造方法

21)特 願 昭62-262256

23出 願 昭62(1987)10月16日

特許法第30条第1項適用 昭和62年9月25日 社団法人日本化学会発行の「日本化学会第55回秋季年 会講演予稿集 🛘 」において発表

郊発 明 者 上 Ш

兵庫県尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三菱電機株式会社

中央研究所内

勿発 明 悟

兵庫県尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三菱電機株式会社

中央研究所内

三菱電機株式会社 の出 願

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

何代 理 弁理士 大岩 増雄 人

外2名

L 発明の名称

フラビン誘導体およびその製造方法

2 特許請求の頭頭

(1) 一般式

CH2 (CHOR1), CH2OR1

(式中、Riは水素原子またはアシル基を、Ri,Ri は水素原子またはアシル基を、R₂,R₁は水業原子 または炭素数1~4個の低級アルキル基を、R。は チオシアナト猛またはメルカプト益を安わす。) で示されるフラビン誘導体。

(2) 一 段 式

CH, (CHOR1), CH, OR1

(式中、Riは水薬原子またはアシル基を、Rz, Rs は水素原子または炭素数1~4個の低級アルキル 基を、R。はアミノ基を表わす)

で示される6-アミノフラビン誘導体をジアゾ化 合物とした後、チオシアン配塩と作用させ、また 必要に応じエステルを加水分解する、一般式

CH, (CHOR1), CH, OR1

(式中、Riは水素原子またはアシル基を、Ri, Ra は水菜原子または炭菜数1~4個の低級アルキル 基を、R.はナオシアナト基を表わす。)

方法。

(3) 一般式

CH₂(CHOR₁), CH₂OR₁

-1381 -

(式中、R1は水紫原子またはアシル基を、R2, R3は水紫原子または炭聚原子 1~4個の低級アルキル基を、R1はアミノ基を表わす)

で示される 6 - アミノフラビン駐導体をジアゾ化 合物とした後、チオシアン酸塩と作用させ、また 必要に応じエステルを加水分解して一般式

CH, (CHORI), CH, ORI

(式中、 R_1 は水業原子またはアシル基を、 R_2 , R_3 は水素原子または炭素数 $1 \sim 4$ 個の低級アルキル 逃を、 R_4 はテオシアナト基を表わす。)

で示される 6 チオシアナトフラビン誘導体を得、 これを選元した後、必要に応じてエステルを加水 分解する一般式

この発明のフラビン誘導体は、一般式

(式中、 R_1 は水素原子またはアシル基を、 R_2 , R_3 は水素原子または炭素数 $1 \sim 4$ 個の低級アルキル 选を、 R_4 はチオシアナト基またはメルカプト基を表わす。)

で示されるものである。

この発明の別の発明のフラビン誘導体の製造方法は、一般式

CH₂(CHOR₁)₂CH₂OR₁

(式中、Riは水素原子またはアシル基を、Ri,Ri は水素原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル 基を、Riはアミノ基を安わす)

で示される6-アミノフラビン誘導体をジアゾ化

(式中、R.は水浆原子またはアシル菇を、R., R.は水浆原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル茶を、R.はメルカプト菇を嵌わす)

で示される 6 ~メルカプトフラビン誘導体の製造 方法。

3. 発明の詳細な説明

〔産菜上の利用分野〕

この発明は、新規なフラビン誘導体およびその 製造方法に関するものである。

〔従来の技術〕

従来、フラビン誘導本体としては、例えばリポ フラビンやルミフラビンが市販されていた。

(発明が解決しようとする問題点)

上記リポフラビンやルミフラビンを、例えばチトクロームCやルブレドキシン等の電子伝達タンパク質を現元するための電極の修飾剤として用いることは困難であつた。

この発明は、従来に代わる新規なフラビン誘導体およびその製造方法を得ることを目的とする。 (問題点を解決するための手段)

合物とした後、チオシアン酸塩と作用させ、また 必要に応じエステルを加水分解して、一般式

CH_(CHOR1),CH_OR1

(式中、R₁は水栗原子またはアシル基を、R₂,R₃ は水茶原子または炭系数1~4個の低級アルキル 基を、R₄はチオシアナト基を表わす。)

で示される 6 チオシアナトフラビン誘導体を得る ものである。

との発明の別の発明のフラビン誘導体の製造方法は、一般式

CH2(CHOR1), CH2OR1

(式中、R1は水素原子またはアシル兹を、R1,R2 は水素原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル 兹を、R1はアミノ茲を変わす) で示される6-アミノフラビン誘導体をジアゾ化 合物とした後、テオシアン酸塩と作用させ、また 必要に応じエステルを加水分解して一般式

CH2 (CHOR1), CH2OR1

(式中、R1は水菜原子またはアシル基を、R2, Rxは水菜原子または炭菜数1~4個の低級アルキル基を、R1はテオシアナト基を表わす。)
で示される6チオシアナトフラビン誘導体を得、
これを還元した後、必要に応じエステルを加水分解して一般式

CH2 (CHOR1), CH2OR1

(式中、Riは水素原子またはアシル基を、Ri, Ri は水素原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル 基を、Riはメルカプト基を表わす)

オシアナト基である 6 ーチオシアナトフラビン誘導体は、文献上既知の 6 ーアミノフラビン誘導体 (パイオケミストリイ, 19,2537(1980) 等)を 15~4 0%の硫酸もしくは塩酸酸性水溶液中、 1.5 ~ 5 倍モルの亜硝酸ナトリウムと作用させ、 6 ージアゾフラビン誘導体を生じさせた後、これを単離することなくチオシアン酸カリウムと作用させることにより合成出来る。

また、6-チオシアナトフラビン誘導体を水溶液中、遠元剤(例えばハイドロサルファイナトリウム、水酸化ホウ素ナトリウム、ジチオスレイトールなど)と作用させるなとにより目的とする一般式(I)中、R4がメルカブト基である6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカブトフラビン誘導体、および6-メルカラムによりがある。

この発明のフラビン誘導体の製造方法の一実施

で示される 6 - メルカプトフラビン誘導体を得る ものである。

〔寒雌例〕.

以下、この発明の実施例についで述べるが、これに限定されない。

との発明の新規なフラビン誘導体は一般式

CH, (CHOR1), CH, OR1

(式中、R₁は水素原子またはアシル基を、R₂, R₃は水素原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル基を、R₄はチオシアナト基またはメルカプト基を表わす)

で示される。この発明の新規なフラビン誘導体としては、例えば 6 チオシアナトー 2′,3′,4′,5′ーテトラアセチルリポフラビンおよび 6 メルカプトー 2′,3′,4′,5′ーテトラアセチルリポフラビンなどがある。

一般式(I)で示されるフラビン誘導体中、R.がチ

例の6~チオシアナト~2′,3′,4′,5′ ~テトラアセチルリポフラビンの合成について述べる。即ち、6~アミノ~2′,3′,4′,5′ ~テトラアセチルリポフラビン1.00g(1.79 mmole)を、設硫酸10mℓ および氷水30mℓの0℃混液中に懸濁する。97% 亜硝酸ナトリウム190.5 mg(2.68 mmole)を0℃で添加後、15分間同温で攪拌する。尿素195.5 mgを0℃で添加し、過剰の亜硝酸ナトリウムを分解して、さらに15分間攪拌する。充分に分解させた後、飽和チオシアン酸カリウム水溶液0.85mℓを0℃で加え、窒素ガスの発生が止むまで(約30分)攪拌する

25% アンモニア水 30ml をを内温 150 以下で、 最終液性が pH2 になるようにする。反応液をクロロホルムの 50 ml で 3 回、合計 150 ml で抽出を 行い、合わせたクロロホルム溶液を無水硫酸ナトリウムで乾燥させる。減圧下溶媒を留去させた後、 残渣をシリカゲルカラム(溶出液:アセトンーベンゼン=1:5)に付し、目的のフラクションを 合わせ、減圧下溶媒を留去する。残留物をクロロ ホルムとヘキサンの混合物より再結晶することにより、目的の 6 ーチオシアトー 2',3',4',5' ーテトラアセチルリポフラビンの黄色結晶 3 6 7 mgが失られる。収率は、 3 4.1 % である。

なお、上記化合物が以下に示す測定結果により、 目的化合物であることを同定した。

融点 138°-142℃

元 紧分析 (%) 計 剛 値 C,51. 92、H,4. 52、N,11. 62 実 剛 値 C,51. 65、H,4. 52、N,11. 52

赤外線段収スペクトル IR(KBr、cm⁻¹)3470,2150, 1740,1580,1535,1215

核磁気共鳴 NMR(CDCI₁、&ppm) 1.82、2.09、2.21、2.31、2.66、2.76(each 3H、s)、4.25、4.44(each 1H、d)、5.41(4H, broad)、5.60(1H, broad)、7.77、8.61(each 1H、S)

次に、この発明のフラビン誘導体の製造方法の一実施例の 6 ーメルカプトー 2′,3′,4′,5′ ーテトラアセチルリポフラビンの合成について述べる。即ち、上記のようにして得た 6 ーチオシアナトー 2′,3′,4′,5′, ーテトラアセチルリポフラビンの

体を用いて下記修飾法により例えば安定なフラビ ン修飾電極を製造することができる。

上記のように合成したフラビン誘導体を例えば 0.1 mg/1 ~ 100 mg/1 の 遊度で水または殻面液に 溶解し、この溶液中に、水または逸い酸または 有 複溶剤等で洗浄した金、銀、白金などの金属酸化物、シリコンや炭素などの 半導体、等の 遊電性 基板を 0.1 秒から 1 時間 浸せ きすることによつて、フラビン修飾電極を得ることができる。

下記に、例えば金蒸着電極上へのチオシアナト
テトラアセチルリポフラビンの修飾について示す。
即ち、第2図の金電極の正面図に示すように金を
蒸着したガラス基板を蒸留水で洗浄した後、磯硝酸中に10分間浸せきして洗浄金電極とする。また、
6ーチオシアナー 2',3',4',5'ーテトラアセチル
リポフラビンをリン酸緩衝液(pH7.0,20mM)中
に 10mg/1 の濃度に溶解する。この水溶液に上述
の洗浄金電極を10分間浸せきした後、水洗して、
安定なフラビン修飾電極を得た。なお、図におい

るように加える。室温下、 2 時間提拌すると目的の 6 ーメルカプトー 2′,3′,4′,5′ーテトラアセチルリポフラビンが生じる。 第 1 図に可視紫外吸収スペクトル図を示す。

次に 6 ーメルカプトー 2′,3′,4′,5′ーテトラアセチルリポフラビンの製造の他の方法について説明する。

EDTA2 ナトリウムを加えない以外は前述の実施例と同様に試料溶液を調整した後、窒素雰囲気下、ハイドロサルファイトナトリウムを 8.0×10⁻⁴ Mになるように加え室温で 1 時間30分攪拌する。本操作により生じた 6 - メルカプト - 2′,3′,4′,5′ - テトラアセチルリポフラビンの紫外吸収スペクトルは上記のそれと一致した。

なお、上配のようにして得られたフラビン誘導

て、(1)はガラス基板、(2)は金蒸着膜、(A)は 50 mm、 (B)は 3mm 、(C)は 10 mm 、(D)は 2mm を示す。

サイクリツクボルタンメトリによる修飾電極の安 定性試験

リン酸緩衝液(pH 7.0,20mM)中に過塩素酸ナトリウムを 100 mM の限度に容解し、アルゴン通気により脱酸素し、これを電解液として上記修飾電極のサイクリックポルタンメトリを($0 \sim -600$ mV vs. Ag/AgCl , 探引速度 50 mV/s) 脚 定し、このときのサイクルによる湿元ピークの高さの変化を示す特性図を第 3 図に示す。 3 サイクル以降、 遠元ピークの高さは、 ほとんど変化せず、 6- チオシアナー 2' , 3' , 4' , 5' - テトラアセチルリポフラビンが安定に金表面に吸着していることを示すものである。 なお、 図において、 縦軸はピーク電流値(AA) を横軸はサイクル(回)を示す。

チトクロームcの還元

チトクローム c を 330 gM の 改度になるように 上記電解放に溶解し、この溶液中で上記フラビン 修飾電極を用いてサイクリックポルタンメトリを 行った結果をチトクロームとを含まない場合とに示す。酸化ピークは認められず、大きる還元忽流が流れるようになることから、この修飾関極を用いるとによつて、チトクロームとを還元はできるが酸化はできないようにすること、すなわちの超いのチトクロームとなることがわかる。

図において、囚はチトクロム c を含まない時のサイクリックポルタモグラム、囚はチトクロム c を含むサイクリックポルタモグラムを示す。又、縦軸は電流(μA)を機軸は Ag/Ag Ce 電極に対する電圧 (mV)を示す。

なお、電子伝遊タンパク質として、チトクローム c の代りに、ルミフラビンを用いた場合も同様である。

(発明の効果)

以上説明したとおり、この発明は

一般式

合物とした後、テオシアン酸塩と作用させ、また 必要に応じエステルを加水分解して一般式

(式中、R1は水紫原子またはアシル基を、R2, R3は水紫原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル基を、R.はテオシアナト基を表わす。)
で示される 6 チオシアナトフラビン誘導体の製造方法を得ることができる。

又、この発明の別の発明は 一般式

(式中、R1は水素原子またはアシル基を、R2,R3 は水素原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル 基を、R4はアミノ基を表わす) CH; (CHOR1); CH; OR1

で示される新規なフラビン誘導体である。

又との発明の別の発明は

— 39 ₹.

(式中、R,は水素原子またはアシル基を、R,,R,は水素原子または炭素数 1 ~ 4 個の低級アルキル基を、R,はアミノ基を表わす)

で示される6-アミノフラビン誘導体をジアゾ化

で示される6ーアミノフラビン誘導体をジアゾ化 合物とした後、テオシアン酸塩と作用させ、また 必要に応じエステルを加水分解して一般式

(式中、R1は水素原子またはアシル基を、R2,R3は水素原子または炭素数 1~4個の低級アルキル基を、R2はテオシアナト基を表わす。)
で示される6チオシアナトフラビン誘導体を得、

これを還元した後、必要に応じエステルを加水分 解して一般式

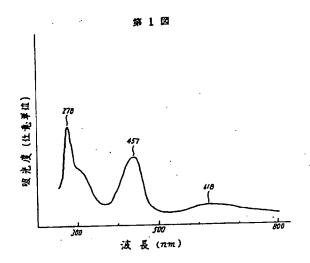
(式中、 R_1 は水素原子またはアシル基を、 R_2 , R_3 は水素原子または炭素数 $1 \sim 4$ 個の低級アルキル基を、 R_4 はメルカプト基を表わす)

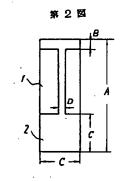
で示される6-メルカプトフラビン誘導体の製造 方法を得ることができる。

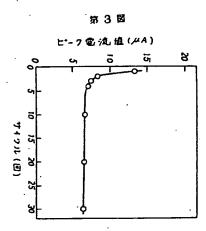
4. 図面の簡単な説明

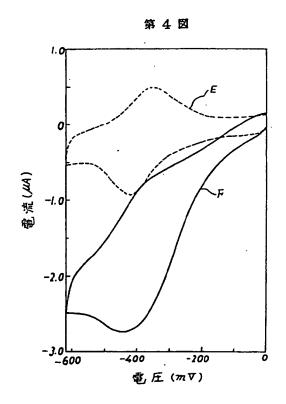
第1図はこの発明の一実施例の 6 - メルカプト - 2′,3′,4′,5′ - テトラアセチルリポフラビンの 可視紫外吸収スペクトル図、第2図は金電極の正 面図、第3図はこの発明の一実施例の 6 - チオシ アナト - 2′,3′,4′,5′ - テトラアセチルリポフラ ビンによる金配極の修飾に得られた修飾電極のサ イクル(回)による選元ピークの高さ(μA)変化 を示す特性図、第4図は上配修飾配極を用いたサ イクリックポルタモグラムを示す。

代理人 大岩 增 增









手 続 補 正 書(自発) 63 3 23 昭和 年 月 日

特許庁長官殿

画

1. 事件の表示

持顧昭 62-262256号

2. 発明の名称

フラビン誘導体およびその製造方法

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

名 称

(601)三菱電機株式会社 代表者 志 岐 守 哉

4.代 理 人

住 所

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

三菱電機株式会社内

氏 名 (7375) 弁理士 大 岩 増 雄 (連絡先03(213)3421特許部)

5. 補正の対象

明細書の特許請求の範囲、発明の詳細な説明および図面の簡単な説明の機





に訂正する。

(7) 同第19頁第 9 行の「修飾に得られた」を「修飾により得られた」に訂正する。

7. 添付设類の目録

補正後の特許請求の範囲を記載した背面 1 道

以上

6. 補正の内容

(1) 明細書の特許 辭求の範囲を別紙のとおり訂正する。

(3) 同第9頁第10~11行の「ハイドロサルファイナトリウム」を「ハイドロサルファイトナトリウム」に訂正する。

(3) 同第11頁第2行の「チオシアト」を「チオシアナ」に訂正する。

(4) 同第11頁第8行の「計測値」を「計算値」に 訂正する。

(5) 同第13頁第16行および第14頁第12~13行の 「チオシアナ」をそれぞれ「チオシアナト」に訂 正する。

(6) 同第17頁第3~6行の

特許請求の範囲

(1)一般式

$$R_3$$
 R_3
 R_4
 R_1
 R_2
 R_3
 R_4
 R_4
 R_4
 R_4
 R_4
 R_5
 R_4
 R_5
 R_4
 R_5
 R_6
 R_7
 R_7
 R_7
 R_7
 R_8
 R_8
 R_8
 R_9
 R_9

(式中、Riは水素原子またはアシル基を、Ri,Riは水素原子またはアシル基を、Ri,Riは水素原子または炭素数1~4個の低級アルキル基を、Riはチオシアナト基またはメルカプト基を扱わす。)で示されるフラビン誘導体。

四 一 段式

(式中、Riは水菜原子またはアシル基を、Ri,Riは水菜原子または炭染数1~4個の低級アルキル基を、Riはアミノ基を表わす)

で示される6-アミノフラビン誘導体をジアゾ化

合物とした後、チオシアン酸塩と作用させ、また 必要に応じエステルを加水分解する、一般式

(式中、R1は水菜原子またはアシル基を、R2,R3 は水菜原子または炭菜数 1 ~ 4 個の低級アルキル 基を、R1はナオシアナト基を変わす。)

で示される 6 チォシアナトフラビン誘導体の製造方法。

(式中、 R_1 は水蒸原子またはアシル基を、 R_2 , R_3 は水緊原子または炭素原子 $1 \sim 4$ 個の低級アルキル基を、 R_4 はアミノ基を表わす)

で示される6-アミノフラビン誘導体をジアゾ化

合物とした後、チオシアン酸塩と作用させ、また 必要に応じエステル加水分解して一般式

で示される 6 チオシアナトフラビン誘導体を得、 とれを選元した後、必要に応じてエステルを加水 分解する一般式

(式中、 R_1 は水蒸原子またはアシル基を、 R_2 , R_3 は水浆原子または炭素数 $1 \sim 4$ 個の低級アルキル基を、 R_4 はメルカプト基を表わす)

で示される6-メルカプトフラビン誘導体の製造

方法。